

令和 8 年度 熊本市 英語教育改善プラン

授業中、児童による言語活動を行っている割合が上昇するよう言語活動の充実を図る

○授業において、50％以上の時間、児童による言語活動を行っている学校が、95％以上となることが目標

(R5: 5年生88% 6年生89% ⇒ R8: 5年生95% 6年生95%が目標)

目標

■ 言語活動 □ 指導と評価の一体化 □ 教師の英語力・指導力 □ 校種間連携 ■ ALTの参画 □ ICTの活用 □ AIの活用 □ その他
(パフォーマンステスト含む) (専科教員含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①小学校5、6年生ともに、授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている。
(R5:5年88%⇒ R8:95%目標)
(R5:6年89%⇒ R8:95%目標)

②複数のALT派遣を希望する学校が増えており、ALTの活用が広がっている。

未だ改善が必要な点

①CAN-DOリスト形式での学習到達目標の公表状況について、7割程度にとどまっている。

<公表状況>
R5:69.6%⇒R8:100%目標

2. 要因分析

①言語活動の充実に向けた各種研修会（ブラッシュアップセミナー、外国語専科教員研修会等）の継続的实施による効果と考える。

②夏のブラッシュアップセミナーや専科教員との連携で、ALT活用の意義を周知することで、授業での活用が増加した。

①CAN-DOリストの有用性及び活用方法について各学校の理解が十分ではなかった。

3. 目標を達成するための施策・事業

①外国語教育に関する研修会の実施
・小学校教員を対象としたブラッシュアップセミナー研修会
・小中連携合同研修の年3回の実施
・教育センターによる授業づくり支援事業（学校訪問、ステップアップサポートによる支援など）
・研究員活動の成果を学校への情報提供
・授業改善にむけたALT対象の研修の実施
→KEY Plan2026の共通理解と実践

②ALTの活用
・授業でのALTの活用の促進
・ALTを活用したスピーキングテストや交流会の実施
・長期休暇における英語で交流する体験的学習の実施
(Jump High! ～ALTとオンラインで話そう! ～)

①各種研修の実施
・小中連携合同研修、ブラッシュアップセミナー、外国語専科研修会実施
→CAN-DOリストの有用性及び活用方法を周知
→好事例を共有
・CAN-DOリストの作成及び見直し等、学校の取組を支援

※教員採用試験において、一定の英語力を有する教員の採用を増やすために、今年度も引き続き、加点対象とする。

令和 8 年度 熊本市 英語教育改善プラン

目標

「授業中、50%以上の時間、生徒による言語活動を行っている学校」の割合を上昇させる

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を習得または有すると思われる生徒の割合（R7: 54.4% ⇒ R8: 60%）

○授業中、50%以上の時間、生徒による言語活動を行っている学校が、60%以上となることが目標（R7: 47.0% ⇒ R8: 60%）

■ 言語活動 □ 指導と評価の一体化 □ 教師の英語力・指導力 □ 校種間連携 ■ ALTの参画 □ ICTの活用 □ AIの活用 □ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合が、前年度よりも向上した。

(R6:36.8%⇒R7:50.6%)

②中学3年生に求められる英語力について、CEFR A1レベル相当と判断できる生徒が昨年度の40.3%から54.4%に上昇した。

(R6:40.3%⇒R7:54.4%)

未だ改善が必要な点

①「授業中、50%以上の時間、生徒による言語活動を行っている学校」の割合が47%となり、減少した。

※本市独自調査より
(R6:63.0%⇒R7:47.0%)

2. 要因分析

①各種研修により、教員の授業改善への意識が高まり、英語力向上への取組につながったと見られる。

②英検IBAの結果分析や分析動画の視聴を通して、教員が授業を振り返り、その結果、授業改善につながっている。

②各種研修を通して、言語活動の大切さを確認したことが要因と考える。また、言語活動の中でも、「読むこと」「書くこと」への活動の充実を再認識することができた。

①英語教員への研修を通して、授業改善は進んでいるものの、文法的な面の指導で終わってしまい、活動や振り返りまで至らない授業が見られた。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②各種研修の充実

- ・中学校の教員を対象としたパワーアップイングリッシュセミナーの実施
- ・小中連携合同研修の年3回の実施
- ・教科指導力向上支援事業を活用
- ・研究員活動の成果を学校への情報提供
- ・IBAテスト結果分析の周知（動画配信）
- ・授業改善にむけたALT対象の研修の実施
→KEY Plan2026の共通理解と実践

②ALTの活用

- ・授業でのALTの活用の促進
- ・ALTを活用したスピーキングテストや交流会の実施
- ・長期休暇における英語で交流する体験的学習の実施（イングリッシュデイ）

①各種研修の実施

- ・パワーアップイングリッシュセミナーの実施
→生徒の英語力把握及び具体的な手立ての提示
→5領域のバランスを考えた指導確認
- ・教育センターによる授業づくり支援事業（学校訪問、ステップアップサポーターによる支援など）
- ・研究員活動の成果を学校への情報提供

令和 8 年度 熊本市 英語教育改善プラン

CEFR A2相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合を上昇させる

- CEFR A2レベル相当以上の英語力を習得又は有すると思われる生徒の割合（R7: A2以上50.1% ⇒ R8: A2以上60%）
- CEFR B1レベル相当以上の英語力を習得又は有すると思われる生徒の割合（R7: B1以上8.0% ⇒ R8: B1以上15%）

目標

■ 言語活動 □ 指導と評価の一体化 □ 教師の英語力・指導力 □ 校種間連携 ■ ALTの参画 □ ICTの活用 □ AIの活用 □ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①CEFR A2レベル相当以上を取得している、あるいはA2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒（普通科）が68.2%となり、昨年と比べて増加した。
(R6:43.7%⇒R7:68.2%)

①CEFR B1レベル相当以上を取得している、あるいはB1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒（普通科）が11.8%となり、昨年とほぼ同じだった。
(R6:10.2%⇒R7:11.8%)

2. 要因分析

①英語教員を対象とした中高合同の研修会や校内研修の充実により、教師の授業改善が推進され、結果生徒の英語力の向上につながったものと考えられる。

①学校訪問を通して、積極的に授業改善に取り組んできたことも要因である。

①英語を使用する場面が言語材料についての理解にとどまり、生徒が既習の言語材料を活用する場面が少ない。

①ALTは授業に参画しているが、生徒がALTに対して英語力を発揮する場面が少ない。

3. 目標を達成するための施策・事業

①各種研修の充実

- ・中学校の教員を対象としたパワーアップイングリッシュセミナーの実施
- ・教科指導力向上支援事業を活用
- ・研究員活動の成果を学校への情報提供
- ・IBAテスト結果分析の周知（動画配信）
- ・授業改善にむけたALT対象の研修の実施
→KEY Plan2026の共通理解と実践

①各種研修の実施

- ・パワーアップイングリッシュセミナーの実施
- ・教育センターによる授業づくり支援事業（学校訪問、ステップアップサポーターによる支援など）
- ・研究員活動の成果を学校への情報提供

①ALTの活用

- ・授業でのALTの活用の促進
- ・ALTを活用したスピーキングテストや交流会の実施

熊本市教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	41.9	50	50	60	50.1	60		70	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		10	18.7	20	10.2	20	8	15		15	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		60	20	60	83.3	100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		60	26.7	100	41.7	100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	33.3	100		100		100		100	
		公表（％）	100	0	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	33.3	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		75	100	80	100	80	100	100		100	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		40	64.3	60	66.7	100	54.5	60		60	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60	56.1	60	40.3	60	54.4	60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		80	56.3	70		70		60		70	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		90	76.2	90		90		90		90	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	97.6	100		100		100		100	
		公表（％）	100	71.4	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	73.8	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	28.8	40	36.8	50	50.6	60		60	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		80	57.9	70		70		60		70	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	85.9	100		100		100		100	
		公表（％）	100	69.6	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	77.2	100		100		100		100	